

図書紹介

阿部生雄 著

『近代スポーツマンシップの誕生と成長』

アラン・トムソン著，阿部生雄他監訳

『スポーツの世界地図』

窪田 眞二*

2012(平成24)年はオリンピック・イヤーであった。ロンドンのオリンピックとパラリンピックでの日本選手の活躍はめざましく、多くの感動をもたらしたことは記憶に新しい。『近代スポーツマンシップの誕生と成長』の著者であり、『スポーツの世界地図』の監訳者でもある阿部生雄会員は、筑波大学附属学校でのオリンピック教育プラットフォーム(CORE=Center of Olympic Research and Education)設置に貢献されており、後者が上梓されたこの期に3年前に出版された前者の著作を併せてここに紹介することとしたい。

1. 『近代スポーツマンシップの誕生と成長』

阿部生雄会員は、イギリスにおける近代スポーツの発祥と展開に関する研究では我が国において随一の研究者である。本書は、著者がライフワークとしてきた、イギリス近代スポーツ史研究の中から、スポーツマンシップに関係する論考を集めたものである。

『スポーツの世界地図』の紹介でも触れることになるが、現代社会におけるスポーツの位置づけを考える上で多くの示唆を得ることができるとともに、プロスポーツとアマチュアスポーツとの垣根が見えにくくなる中で、スポーツマンシップとその教育的側面、アマチュアリズムの思想、さらに日本への導入について、改めてとらえ直す上で重要な意義を持つ学術的文献となっている。

本書のキーワードを挙げるとすれば、スポーツ、スポーツマンシップ、アマチュア・スポーツ、ノーブレス・オブリージ、筋肉的キリスト教(muscular

*筑波大学人間系

Christianity), オリンピズムということになる。これらの日本への導入の歴史的背景を知る上で貴重な業績となっている。

内容としては、上記キーワードの概念定義から始まり (Ⅰ), イギリス近代スポーツとその精神の形成過程を歴史的に追い (Ⅱ), “筋肉のキリスト教” とスポーツマンシップとの密接な関連性を言説分析から明らかにし (Ⅲ), スポーツマンシップがオリンピズムへと接続し, さらに日本にどのように導入されてきたかを明らかにしている (Ⅳ)。さらに, イギリス・スポーツ団体結成年譜, スポーツマンシップの言説年譜, ケーベルタンの著書の一部が付録として掲載されている (Ⅴ)。

特に, ⅡからⅣは詳しいデータを示した表がふんだんに使われ, 専門外の読者にも大変興味深く読めるものである。本書の構成は以下のようになっている。

序

第Ⅰ編 スポーツマンシップの概念史

第1章 スポーツの概念史

第2章 英米系辞書にみる「スポーツ」と「スポーツマンシップ」

第3章 「スポーツ」用語の日本的受容

第Ⅱ編 イギリス近代スポーツとその精神の形成

第4章 イギリス近代スポーツの形成

第5章 イギリス・スポーツ教育の精神—課外教育と自治の発見

第6章 モバリー校長とウィカミストの反抗

第7章 パブリックスクール教育と「制度」としてのゲーム活動—近代スポーツマンシップの温床

第8章 ゲーム活動組織化の原理—能力主義の神話とノーブレス・オブリージの残存

第9章 ラグビー・フットボールの神話化—エリス伝説と『ラグビー・フットボールの起源』(1897)

第Ⅲ編 「筋肉のキリスト教」とスポーツマンシップの言説

第10章 チャールズ・キングスリと「筋肉のキリスト教」

第11章 トマス・ヒューズと「筋肉のキリスト教」

第Ⅳ編 スポーツマンシップの伝播と受容

第12章 オリンピズムへの接続

第13章 武田千代三郎と「競技道」—スポーツマンシップの日本的受容

第V編 付録 あとがき／索引

筆者が序において記しているように、本書によって「[スポーツマンシップ]ムーブメントをもたらした19世紀的な道徳的情熱の発露を再現し、「スポーツマンシップ」の普及と伝播を追う中で、新たな「スポーツマンシップ」の可能性を秘めた胚種を模索すること (p.v)」への貢献は大いに期待されるし、今日を生きる私たちが「[人間]らしさを回復しようとし、「人間」的存在として、また「人類」の一員として、さらに「スポーツの時代」の地平を切り開いて行く「スポーツマン」としての義務と勇気がある (同上)」ことを伝えていると確信する。

スポーツが政治的手段として利用されるようになってきていること、商業主義やマンモニズム (拝金主義)、メディアによるスポーツ支配、過剰なヒロイズムなど、今日において様々に指摘されるスポーツをめぐる諸問題は、筆者の指摘するように「[スポーツマンシップ]という個人の修養プログラムを凌駕し始め (p.iv)」しており、本書はそれらの諸問題の解決を目的としたものではないが、「近代スポーツマンシップ」の脱構築のためにも、スポーツマンシップの誕生と成長の過程を明らかにした本書の価値は大きいものがある。

スポーツには人間形成的意義とともにこうした社会的諸課題が伴っているということについての筆者の立場は、近刊の『スポーツの世界地図』と共有するものがある。『スポーツの世界地図』の原著者であるトムリンソン氏のスポーツ観に共感したからこそ阿部会員は訳出を申し出たのであろう。

2. 『スポーツの世界地図』

本書は、原著者アラン・トムリンソン (Alan Tomlinson) によって2011年にイギリスで出版された『The Atlas of SPORT』(Myriad Editions Limited) を阿部生雄会員らが監訳者となって翻訳し、上梓されたものである。今日の世界のスポーツ事情を、民族スポーツから始まり、世界中で行われている30のスポーツを取り上げている。ただ単なるスポーツの紹介本にとどまらない内容であることについては、監訳者のあとがきが次のように端的に物語っている。

「一読しておわかりかと思うが、著者トムリンソン教授は今やオリンピック批判の古典ともいえるべき『ファイブ・リング・サーカス』(柘植書房、1984年)の編

著者にふさわしく、現代スポーツの病弊に鋭くメスを入れ、さらにスポーツ・ビジネス、メディア、マスコミへの批判の言葉にもぶつかるであろう。／読者は、彼の言葉や言説の一つひとつに違和感を抱いたり、あるいは共鳴もしたりするであろうが、私たちとしては読者が自分の目で、耳で、体であるいは頭でスポーツの「事実」をとらえてほしいと願っている。本書はそういう意味では現代スポーツを分析する視点、ものさしを提供してくれるはずだ。」(p. 141)

確かに、本書を手にとって最初に目にする「はじめに」で、次の文言に触れたとき、強いメッセージが込められていることを知ることができる。そこには次のように書かれている。

「この地図はスポーツの政治的、経済的特徴を描き出すようにつくられている。(p. 9)」「第1部は、社会や国際スポーツ競技会でよく知られているスポーツの政治利用に焦点を当てる。これには、ゲイ権利運動、平和と開発のための推進運動、あるいは障がい者の運動などのスポーツ・ムーブメントにみられる進歩的な文化活動が含まれる。第3部は、金や利潤といった主要な駆動力、国際スポーツ界、またたとえばマーチャンダイジングやギャンブル産業におけるスポーツの貢献といったことをみていく。政治と金は、現代世界でますます注目されているスポーツの核心である。(同)」「スポーツは柔らかな権力(ソフトパワー)として政治的に便利であり、経済的にグローバル化した商品として魅力がある。(p. 10)」

特に第1部でのスポーツの政治利用に関する記述を読むと、間違いなく第2部のさまざまなスポーツの世界での広がりについて、ひとつの「ものさし」で読み始めることになる。えてしてスポーツは政治と切り離されるべきだとか政治に影響を受けるべきではないといった規範で語られるものだが、歴史的な事実がそうした規範とは裏腹に利用されたり影響を受けてきていることをあらためて確認することができる。スポーツと金についても同様である。スポーツの楽しさや喜びにつながる側面にのみ関心のある読者には、あまりうれしくない情報が満載されている。

しかし、阿部会員が冒頭に示した CORE の設置に尽力されたのには、そうしたスポーツ(その象徴的な存在としてのオリンピック)の持つ政治や経済との関わりも含めたオリンピック教育の意義に共感したためであろうことは間違いのないと思われ、その企図するものが、本書のメッセージと重なっていると思われる。

本書の構成は以下のようになっている。

日本語版序文／はじめに／謝辞／民族スポーツ

第1部 国際スポーツ政治

オリンピック大会／ワールドカップ・サッカー／コモンウェルスゲーム／スポーツにおけるドーピング／障がい立ち向かう／ゲイ・ゲームズ／開発と平和

第2部 スポーツ A to Z

アメリカンフットボール／野球（ベースボール）／バスケットボール／ボクシング（アマチュア）／ボクシング（プロ）／クリケット／キュー・スポーツ／自転車／サッカー（世界編）／サッカー（欧州編）／ゴルフ（アマチュア）／ゴルフ（プロ）／体操とエクササイズ／ハンドボール／ホッケーとアイスホッケー／競馬／アイススケート／ライフスタイルスポーツとエクストリームスポーツ／マラソン／マーシャル・アーツ（武術・武道）／モーターレーシング／複合競技／ラグビーフットボール／セーリング／スキーとスノーボード／水泳と飛込／テニス／陸上競技／バレーボールとビーチバレー／レスリング

第3部 スポーツの経済学

国際競技連盟（IF）／メディア／スポンサーシップ／スポーツ消費／マーケティング（スポーツ関連商品製造と販売）／ギャンブル／スポーツ・ツーリズム

第4部 国別スポーツプロフィール

国別スポーツプロフィール／国名の用語解説／出所
索引／監訳者あとがき／訳者一覧

阿部生雄著『近代スポーツマンシップの誕生と成長』

筑波大学出版会，2009年，4400円（税別）

阿部生雄，寺島善一，森川貞夫監訳『スポーツの世界地図』

丸善出版，2012年，2900円（税別）